

# 健和会リハビリテーション部通信 2019年度 Vol.2

2019年7月28日(日)に2019年度第1回PT部門研修会が開催されました。『長下肢装具の生体力学的な観点』と題し、京丹後市立弥栄病院リハビリテーション科梅田匡純技師長より、装具療法についてご講義いただきました。脳卒中に対する理学療法の歴史から現在の装具療法の実際、装具の種類や特徴、症例検討など、様々な方面から装具療法についての考え方を教えて頂きました。参加者は計59名でした。



## 内容

- ・ 運動学習のツールとしてなりうるか
- ・ 主な下肢装具の種類
- ・ 長下肢装具の2つの継手の関係性をさぐる～床反力～
- ・ 長下肢装具の2つの継手の関係性を探る～関節モーメント～
- ・ 足継手の背屈制動の適応は？
- ・ 症例検討(急性期・回復期・生活期)
- ・ 明日から臨床でできること

## 参加者アンケートより 《一部抜粋》

装具のメリット、デメリット、新しい考え方が分かった。

ROM・SVMの関係性、LLB・SLBの継手の種類の使い分けが理解できた。

床反力や働く筋と装具の特性、継手が床反力に与える影響が理解できた。

今までは固定するものと考えていたが運動学習にも利用できることが理解できた。

みなが同じ目標をもって標準化していく必要がある。

回復期などで検討する事がたくさんあるので、視野を広く評価、治療ができると思った

LLBを積極的に使用し立脚期をしっかり作っていく。股関節伸展を作っていく。

OTとして装具の考え方や必要性を感じた